(5) 農業を開く

阿部好貞（1856～1939）

好貞は、常陸土浦藩領7000石の大庄屋に生まれ、明治15年（1882）、たったひとりで上蓬田字堂久保及び入山地内約30町歩（30ha）の山林を開いて田畑を作った。また、明治35（1902）東北大暴風雨による大ききん[注(1)]を救う目的で、上蓬田地内北須川治水工事を起こし完成させた。

笠巻多一（1904～　　）[注(2)]

多一は、蓬田村（平田村）打違内部落の出身で、このあたりで、イネの温床育苗栽培を初めて行なった人である。多一は、試験的に作った苗を水田の片すみ[注(3)]に植えたところ、きわめてよく成長し、ふつうの苗代にくらべてたいへん好成績であった。以上のようなことから、昭和２年（1927）２坪（6.6㎡）の温床を作ってイネ苗を育てた。その結果は、たねの発芽、発芽後の成長とも、多一の予想どおり、たいへんよかった。

久保木久治（1884～1942）

明治42年（1909）他の町村より先に、有限責任鴇子信用組合を作り、農民の組織化に成功し、農村の不況を克服する。また、昭和14年（1939）～昭和16年（1941）まで葉たばこ耕作組合長[注(4)]をつとめ、蓬田葉たばこ取扱所を作った。

草野政光（1891～1975）

小平小学校を卒業するとすぐ農業を始め、農業の基本は土づくりであると信じ、堆肥作りに努力、昭和７年（1932）、昭和11年（1936）の２回、堆肥増産競技で知事賞を受賞、以来、高冷地の稲作の向上に努力した。また、葉たばこ栽培も昭和初期より収穫量がふえ、品質の向上にも努力した。85才でなくなるまで、一生を通じて、高令地の稲作の向上と葉たばこの増産、ひいては小平の農業の発展につくした。

注 (1) ききん…農作物がとれず、食料がとぼしくて飢えに苦しむこと。
(2) 治水…川の流れをよくして、大水になるのをふせいだり、その水力を利用したりすること。
(3) 温床…苗を早く育てるために高い温度を保つようにしてある苗床。
(4) 組織化…何人かの人をあるひとつのまとまりにすること。